

巻 頭 言

『帝塚山大学心理科学論集』第3号の発刊にあたり、ここに皆様方にご挨拶申し上げます。

今年度を振り返りますと、まずは現上皇陛下のご譲位と新しい天皇陛下のご即位により、時代は平成から令和へと移っていきました。また、ラグビーワールドカップでの日本代表の快進撃や吉野 彰先生のノーベル化学賞受賞など、さまざまな喜ばしいニュースがもたらされました。

しかしその一方で、児童虐待に関する痛ましい事件や無謀な自動車運転による死亡事故の数々、さらには超弩級の台風による大災害に昨今の新型コロナウイルス感染拡大など、不幸な知らせも絶えませんでした。

このような不幸に直面したとき、あるいは義憤に駆られ、あるいは意気消沈するかもしれません。しかし、それだけでは問題は何も解決しません。こういう惨事を二度と繰り返さないためにはどうすればよいのだろうか、事前に防ぐ手立てはなかったのだろうか、苦しみの淵にある人々にどのような支援をしていけばよいだろうか……などを考え、実践していくことで次なる幸福へと繋がっていくのではないかと思います。

ここで、われわれが専門とする心理学について顧みると、まさに上述のことを、「科学」という立場から検討・実証し、具体的な方向性を明示してきた学問であると言えます。心理学を学ぶ者として、このことをしっかりと自覚し、これからも人間社会の発展に寄与できるような研究を積み重ねていかねばならないと思います。

今回掲載された論文は、われわれの日常生活に根差した諸問題が研究のベースになっており、心理学を通しての問題解決を提案するものでもあります。何卒、多くの方々のご参考になれば誠に幸いに存じます。

帝塚山大学心理学部
学科長 水野 邦夫